

特別活動（学校行事）での自己評価アンケートを活用した学級経営の在り方と評価及びポートフォリオの再開発

愛知県立岡崎商業高等学校

1 はじめに

本校は創立 102 年の歴史の中で、多数の産業人を輩出している西三河地区唯一の単独商業高校である。また、多くの生徒が意欲的に部活動に取り組み、運動部・文化部とも県大会、全国大会で活躍するなど活気があふれている。特別活動においても、30 年以上続く伝統的な音楽コンクール、運動部員チームが活躍して白熱した試合が見られる球技大会、さらには学級全体として取り組む体育祭・文化祭などの学校行事があり、行事縮小の傾向にある中で、多くの学校行事が今でも行われている。このことから、学校行事での自己評価アンケートを利用した学級経営及び組織マネジメントの在り方をテーマとして研究に取り組んだ。

2 本年度の研究計画

(1) 学校行事における自己評価アンケートを活用した学級経営及び組織マネジメントの在り方

過去 2 年間の研究内容「特別活動（学校行事）における生徒の取組を観点別に自己評価させ、学校行事から何を学び、あるいは自己をどう成長させたかの評価結果をみとり、指導を加える。このことにより心の成長を図る」を踏まえ、本年度は個々の生徒への個別指導もさることながら、自己評価結果を活用した学級経営と組織マネジメントに焦点を絞り込んで研究を進める。

そのために、昨年度まで学級を抽出して行っていた研究を、生徒会部（分掌）の組織的協力及び全職員の共通理解を通して全学級に拡大し、行事に対する問題点や改善点を読み取るために実施していた従来の生徒会アンケートは、自己評価を主とした分かりやすい用語・表現を用いたものに改訂する。

また、各担任が学級ごとの問題点や特性を把握して改善に努めるとともに、全職員には、アンケート集計結果の分析に基づいて、学校行事に対する生徒の自己評価の必要性や意義、学校行事の在り方や教育的効果の再認識を図る。

さらに、生徒会部では学校行事における学級経営及び組織マネジメントの在り方をテーマとして研究に取り組むこととし、KJ 法などを用いて問題点や改善点について議論を深める。

(2) ポートフォリオの再開発

本校は「学校評価システムの確立に関する調査研究」（文部科学省研究開発指定校）を受け、3 年間（平成 15 年度から 17 年度）の研究を行った。その取組課題の中で重要となった項目が情報発信であった。そこで従来の成績表では生徒の学校での様子が詳細に発信されていないと考え、生徒自身に学校生活に関して振り返らせ、保護者にその情報を詳しく発信することを目的に「自己評価記録表」の開発を行った。手順としては各学期末に、学校生活における本人の取組を項目別に自己評価させ、さらに担任による評価を加え記録表にまとめ、保護者に情報発信を行う。その後、保護者に感想などを記入してもらい、新学期に回収する。この「自己評価記録表」を毎学期ファイリングすることによって、卒業までに数枚の自己評価を中心とした高校生活の心の成長記録表が完成できる。しかしながら、過去 2 年間取り組んでいる「自己評価記録表」の研究については、2 学年から 3 学年にかけて同一学科 2 学級対象で行ったので、対象学級も少なく学年途中ということもあり、内容の充実した記録表の完成には至らなかった。そこで、本年度は 1 年生を対象に 4 学級（男女学級 2 学級、女子学級 2 学級）で研究開発を行った。過去の有用性調査からは生徒の取組に関する情報発信の必要性が認識できたが、生徒への効果（心の成長記録）がより期待できるものを目指し、愛知教育大学教授寺西和子先生に再度協力を依頼し、内容や実施方法について再開発を行った。

3 実践内容

(1) 特別活動（学校行事）での自己評価アンケートを利用した学級経営の在り方

過去2年間の研究では、「学校行事における活動の主体はあくまで生徒であり、個々の生徒が行事にどのように取り組み、どのように活動したかや、学校行事から何を学び、自己をどう成長させたかについては、生徒自身の自己評価が重視されるべきである」との観点から、それらをとらえる方途として、行事直後に実施する自己評価アンケートと担任による大まかな評価とを位置付け、総合的な分析をすることに主眼をおいて研究を進めてきた。しかしながら、学校行事から分かる個人の情報をどのように教育活動に活用すべきかについて更に研究を進めていくと、自己評価アンケート結果から把握できる個人の情報は、学級としての集団の在り方、つまり学級経営に生かして活用されるべきではないかと考えた。

ア 自己評価アンケートの見直しと全学級実施

特別活動における評価については既に国立教育政策研究所が「関心・意欲・態度」、「思考・判断」、「技能・表現」、「知識・理解」の4観点で整理している。当初は、＜表1＞、＜表2＞に示したように、国立教育政策研究所が提示している評価規準（上段の一般的表現）と行事において想定される具体的な活動場面とを照合させる形で、自己評価規準（アンケート項目）を作成した。しかしながら、「現場教員の感覚」からは、4つに分類する上での「迷い」や運用の際に生ずると考えられる難しさを感じられたので、更に整理・検討を試み、この4観点を＜表3＞に示したように、「情意面」、「認知面」、「社会性」という本校独自の3観点に整理し、自己評価規準（アンケート項目）を作成した。本年度はこのアンケート項目を生徒会の意向を汲みつつ、自己評価が可能なアンケートに再検討し直した。

評価規準例1（国立教育政策研究所の規準に基づき、岡崎商業高校の行事に即して作成）

【学校行事(2)「学芸的行事」：音楽コンクールの評価規準】

＜表1＞

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
一般的表現	・ 平素の学習の成果を総合的に生かし、自己の成長を振り返り、自己を伸ばそうとする意欲をもって活動しようとしている。	・ 学校生活を楽しく豊かなものにするために、よりよいものを創り出す方法や美しいものや優れたものを鑑賞する方法などについて深く考えている。	・ 平素の学習の成果を工夫して表現し、互いに努力を認め合いながら、協力してよりよいものを創りあげたり、鑑賞したりすることができる。	・ 行事のねらいや進行の計画、各自の役割について理解し、自分の目標を達成するための活動方法や発表の仕方などが分かる。
具体的評価項目	・ 音楽コンクールという行事に、積極的に取り組むことができた。 ・ 初めは難しいと思ったことをやりとげた感じがする。	・ 音楽コンクールを通して、音楽への親しみが増した。	・ 学級の仲間の知らない面に気付き、以前より親しみを感ずるようになった。 ・ 他の学級の頑張りも評価できる。	・ 学級の仲間のことを思い、協力して行動するようにした。

【学校行事(3)「健康安全・体育的行事」：球技大会の評価規準】

<表2>

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
一般的表現	心身の発達や健康、安全な行動の大切さについて深く関心をもつとともに、運動に親しみ、健康で安全な生活の実現に努めようとしている。	自他の生命を尊重し、心身の健康や安全を保持するために必要な生活の仕方、体力の向上などについて考え、判断している。	心身の発達や健康の保持増進に積極的に努め、自他の安全の確保や規律ある集団行動を行う技能などを身に付けている。	心身の健康の保持及び増進に必要な生活の仕方についての知識を深め、進んで運動する意義や運動に親しむ方法を理解している。
具体的評価項目	- 球技大会という行事に積極的に取り組むことができた。 - ゲームの大事な場面で粘り強くプレーできた。	- 他の学級の頑張りも理解できる。 - 学級の仲間の知らない面に気づき、以前より親しみを感ずるようになった。	- 学級の仲間のことを思い、協力して行動した。 - 球技大会を通して、先輩・後輩に親しみを感ずるようになった。	球技大会が、体力の増進に役立った。

評価規準例2（考案した3観点に基づき、岡崎商業高校の行事に即して作成）

<表3>

	関心・意欲・態度 情 意 面	他者との協働 社 会 性	理解・技能・評価 認 知 面
一般的表現	平素の学習の成果を総合的に生かし、自己の成長を振り返り、自己を伸ばそうとする意欲をもって活動しようとしている。	行事のねらいや進行の計画、各自の役割について理解し、自分の目標を達成するための活動方法や発表の仕方などが分かる。	平素の学習の成果を工夫して表現し、協力してよりよいものに仕上げたり、互いに努力を認め合ったりできる。
音楽コンクール	- 音楽コンクールという行事に積極的に取り組むことができた。 - 初めは難しいと思ったことをやりとげた感じがする。	- 学級の仲間のことを思い、協力して行動するようになった。 - 学級の仲間の知らない面に気づき、以前より親しみを感ずるようになった。	- 音楽コンクールを通して、音楽への親しみが増した。 - 他の学級の頑張りも評価できる。
球技大会	- 球技大会という行事に積極的に取り組むことができた。 - ゲームの大事な場面で粘り強くプレーできた。	- 学級の仲間のことを思い、協力して行動した。 - 学級の仲間の知らない面に気づき、以前より親しみを感ずるようになった。	- 球技大会が、体力の増進に役立った。 - 他の学級の頑張りも理解できる。 - 球技大会を通して、先輩や後輩に親しみを感ずるようになった。

体育祭	・ 体育祭全般について、積極的に取り組むことができた。 ・ 自分の参加した競技では、ベストを尽くすことができた。	・ 学級の仲間のことを思い、協力して行動した。 ・ 学級発表のテーマに沿って、魅力あるものをつくろうと努力した。	・ 体育祭で、公正に行動することができた。 ・ 体育祭を通して、先輩や後輩に親しみを感じるようになった。 ・ 他の学級の頑張りも理解できる。
文化祭	・ 文化祭全般について、行事の意義を理解して積極的に取り組めた。	・ 学級の仲間のことを思い、協力して行動した。 ・ 学級発表のテーマに沿って、魅力あるものをつくろうと努力した。 ・ 学級の仲間の知らない面に気づき、以前より親しみを感じるようになった。	・ 文化祭で、新しい価値の発見があった。 ・ 文化祭を通して、先輩や後輩に親しみを感じるようになった。 ・ 他の学級の頑張りも理解できる。

また、各学校行事自体の目標を、本校独自の3観点の自己評価規準に照らし合わせた目標になるよう生徒会部に目標の見直しを依頼し、生徒会部で各学校行事の意義・目標を自己評価の観点に合致したものに改訂し、＜表4＞のようにまとめた。

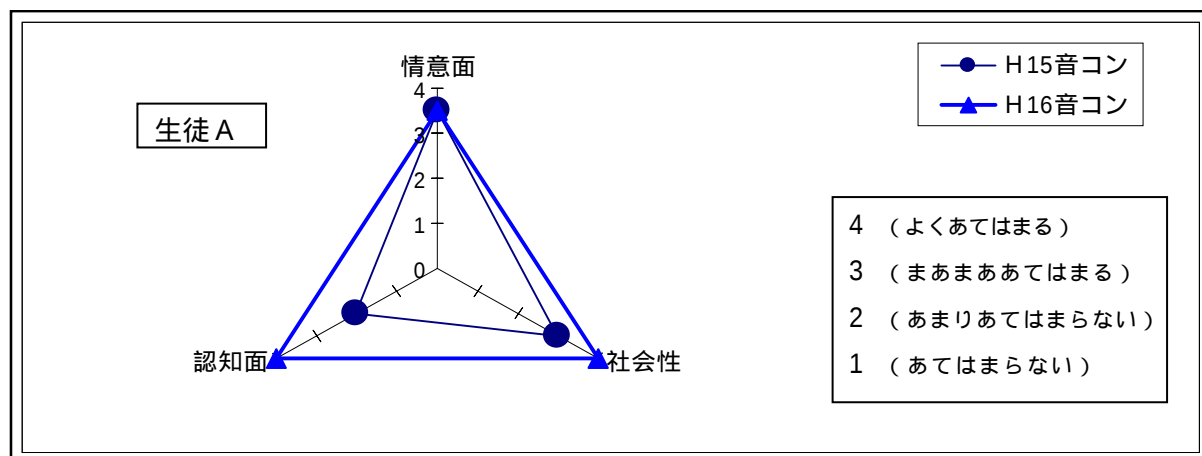
＜表4＞

生徒会行事の評価の在り方（意義・目的の見直し）	生徒会部
1 各行事の目的（評価規準）	
（1）音楽コンクール ・ 音楽コンクールを通じて、感性を磨くとともに、クラスの和を高める。	
＜来年度＞ 音楽コンクールに積極的に取り組み、自己の役割を果たすことによって達成感を味わうと共に、クラスの和を高める。	
（2）球技大会 ・ 球技大会を通じて、クラスの親睦と団結を図ると共に、学年を超えての交流を深める。体力・精神力を養う。	
＜来年度＞ 球技大会を通じて、クラスの親睦をはかるとともに、学年を超えての交流を深め団結することの大切さを知る。併せて、体力増進と強い精神力を養う。	
（3）体育祭 ・ 正しい競技や協力の精神を通じて、公正に行動し、協力態度・観戦態度を身に付けるとともに、生徒間の親睦を高める。	
＜来年度＞ 体育祭に積極的に取り組み、公正に行動する態度、協力の態度、観戦態度を身に付けるとともに、学年を超えた生徒間の親睦を図る。	
（4）文化祭 ・ 文化祭を通じて新しい価値の発見や創造に挑戦し、学校・クラス・部活動での積極性、協力性を高める。	
＜来年度＞ 文化祭の意義を理解し、積極的に参加することによって、新しい価値観の発見や創造することの喜びを知る。併せて、学校・クラス・部活動の仲間との交流を図る。	

イ アンケートの実践と集計結果

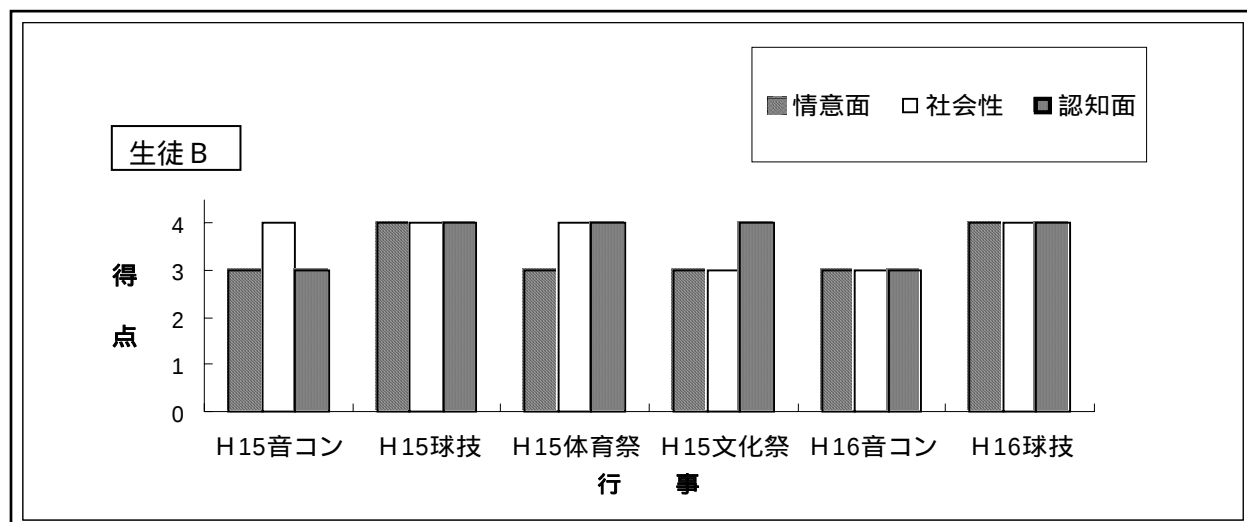
過去2年間の研究では、従来の生徒会アンケートと別に自己評価アンケート（特別活動自己評価表）を特定学級にのみ実施してきた。各行事を終えた直後の時期に、平成15年度は各学年1学級、平成16年度は各学年2学級を対象に各担任がアンケートを実施して集計した。生徒評価（自己評価）とともに担任による評価（他者評価）も行い、担任概括として整理したり、学級別に集計してグラフ化したりするなどの分析を行った。また、各観点内に設けた2, 3項目の回答を得点化して平均値を求めるという操作を通して、＜図1＞及び＜図2＞のように、生徒の自己評価に基づく個人プロフィールを作成し、各行事に対する観点別評価の年度比較及び行事比較を行った。

＜図1 行事別の個人プロフィール＞



＜図1＞は、生徒Aの音楽コンクールにおける自己評価を観点別に整理して年度比較したものである。この生徒は陸上部に所属し、きわめて活発な生徒である。担任からみれば、どちらかという音楽コンクールなどの文化的行事には自主的に参加していないように思われていた。また、当該学級の成績は15年度（2年生）、16年度（3年生）とも入選を果たせず、行事が学級や個人に及ぼす成果はあまり期待できない状況と考えられた。しかしながら、生徒の自己評価は各観点ともに否定的な回答ではなく、15年度に比べ、16年度の方がより肯定的な回答となっている。学級の編成替えのような外的要因の他に、生徒A自身の成長という内的要因などによって、前年よりも積極的に取り組むことができたと考えられる。

＜図2 時系列的な個人プロフィール＞



<図2>は、生徒Bの各行事における3観点を時系列的に示している。この生徒は吹奏楽部に所属しており、運動はあまり得意ではないが、文化祭では部活動発表を行った。15年度(2年生)の音楽コンクールにおける認知面(理解・技能・評価)の肯定度がやや低く、学級の編成替え後の16年度では、社会性の観点も低い値となっている。むしろ、体育的行事では両年度とも学級の成績がかなり良好だったことから体育的行事の方が肯定的な値となっている。こうした自己評価に関する事実に基づいて、生徒の抱えている問題や心情を掘り起こして話す機会とすることができる。

以上のように、担任が把握しきれていなかった個性(見えなかった姿)が認識され、生徒理解が深まるとともに、その後の指導に活用されるようになった。

ウ 行事の「振り返り」としての担任概括

<表5 担任概括の質問項目とまとめ>

生徒自己評価（球技大会）の担任概括

I 生徒による自己評価を概括して、担任による評価との一致の程度

回答 1 ほぼ一致している

2 おおむね一致している

1年4組	2年2組	2年8組	3年6組	3年7組	1年2組
------	------	------	------	------	------

II 生徒の自己評価と担任による生徒評価とで、「かなり食い違う」と感じられた人数

	人数		人数		人数
1年2組	0	2年2組	1	3年6組	3
1年4組	0	2年8組	1	3年7組	2

食い違いの大きかった主な例

1年2組	1年4組	特になし
2年2組	学級全員が積極的に行動できたと思うが、自己評価で協力できない生徒がいたため。	
2年8組	何かトラブルがあったのか運動が苦手だからか分からないが、一人だけ④を付けた生徒（Q1）がいて気になるので声掛けをしたい。	
3年6組	後輩と対戦し、また自分の学級や同学年を応援し合うことでまた、そのような姿を通し、お互いに親近感がもてたのではと、想像したが、全くそのようなことは感じなかった者が3名いたことに対し、意外性を感じた。	
3年7組	プレーでかなり活躍していた生徒が、プレー中にラフなプレーをしてしまい悪い印象で終わってしまった。そのことから評価を低く付けていたようだ。	

III 自己評価によって初めて分かった「個人の姿」に関する事例がありましたら、記述してください。

1年2組	数多くの生徒が球技大会に対して積極的に取り組むことができた。生徒一人一人の姿も意欲的にできたことは、担任としてはほっとしている。また、多種目の応援に積極的にしていたので、とてもうれしく感じた。
1年4組	特になし
2年2組	特になし 試合会場を回って見てましたので、おおむね担任の考えと一致していた。
2年8組	普段自己主張をしない生徒でも、球技大会では満足している生徒が多くいて積極的に取り組んでいてよかった。
3年6組	おおむね予想と一致していた。
3年7組	男子の最後のゲームでラフプレーがあり、非常に後味の悪いものになってしまったので、男子全体の評価が当事者を含め、やや低くなっていた。優勝という学級の結果によって、印象とともに評価が変わった。

<表5>は16年度球技大会における担任概括の集約結果である。担任概括は、担任のとらえた一人一人の生徒の取組の姿と生徒自己評価アンケートの結果とで明らかにされた相違点や「見えていなかった姿」を認識し、以後の学校行事での指導に活用するためのものであるが、行事における生徒の取組を思い浮かべながら記述してみることで、冷静に振り返る機会にもなっている。この担任概括アンケートにおける多面的な評価項目の設定によって、各担任が従来はとらえきれなかった生徒の実態や、

各生徒の多様な取組とその背景をなしている学級に対する思いや学級全体の雰囲気とを把握することができた様子が分かる。このように、担任概括としてまとめて各学級のアンケート結果を比較することによって、他学級との違いや学級の雰囲気を的確に把握でき、以後の行事を行う上で、担任としてどのような点に留意して学級の指導に当たればよいかを考えるようになる。

生徒・教員間や学級間の差が問題ではなく、明らかにされたことに基づいて、その後の学級経営において学級集団による活動を通して「生きる力」をはぐくむことができるように、生徒をほめたり激励したりするなどの工夫をして指導を改善することが重要である。つまり、各担任も生徒の取組を評価する目的で、積極的に競技会場に足を運び、担任の目で確認したことが、評価すべき「見えていなかった姿」を認識できたのである。そして、該当学級担任からは「把握しきれていなかった個性（見えなかった姿）」が認識され、生徒理解が深まるとともに、学級のまとまりがよく表れていて、その後の学級指導に活用できた。また、生徒自身に取組を振り返らせ記入させることにより、見えなかった生徒の取組が汲み取れた」などの肯定的な意見が多くあり、学校行事の学級経営とのかかわりや意義に着目したり、教育的効果について全職員の共通理解を導き出したりすることに活用できた。

< 表 6 >

音楽コンクール自己評価アンケート		年 組 () 番	
音楽コンクールの意義 コンクールに積極的に取り組み、自己の役割を果たすことによって達成感を味わうとともにクラスの和を高める。 このアンケートは自分が音コンにどのようにかかわったかを振り返るとともに、来年の音コンをよりよいものにするためのものです。当日までの自分を振り返って、下記 Q1～Q13 の質問項目について下の選択肢のうち適当と思う番号に○を付けてください。			
1 よくあてはまる	2 まあまああてはまる	3 あまりあてはまらない	4 あてはまらない
Q 1. 音楽コンクールという行事に積極的に取り組めた。			
(1	2	3	4)
Q 2. 音楽コンクールをとおして、音楽への親しみが増した。			
(1	2	3	4)
Q 3. クラスの仲間のことを思い、協力して行動するようにした。(鑑賞態度・練習時など)			
(1	2	3	4)
Q 4. クラスの仲間の知らない面に気づき、以前より親しみを感ずるようになった。			
(1	2	3	4)
Q 5. 初めは難しいと思ったことをやりとげた感じがする。			
(1	2	3	4)
Q 6. 「今のクラスでよかった」という気持ちが以前よりも増した。			
(1	2	3	4)
Q 7. 他のクラスの頑張りもよく分かった。			
(1	2	3	4)
Q 8. マナーは昨年と比べてよくなったと思う。			
(1	2	3	4)
Q 9. 大合唱はよかったと思う。			
(1	2	3	4)
Q 10. 職員の歌はよかったと思う。			
(1	2	3	4)
Q 11. 音楽コンクールの取組によって、これからの学校行事も頑張ろうと思った。			
(1	2	3	4)
Q 12. 今回の音楽コンクールに関して、自分でよく頑張ったと思うことをアピールしてください。			
[]			
Q 13. その他、提案や意見がありましたら記入してください。			
[]			
ご協力ありがとうございました。			

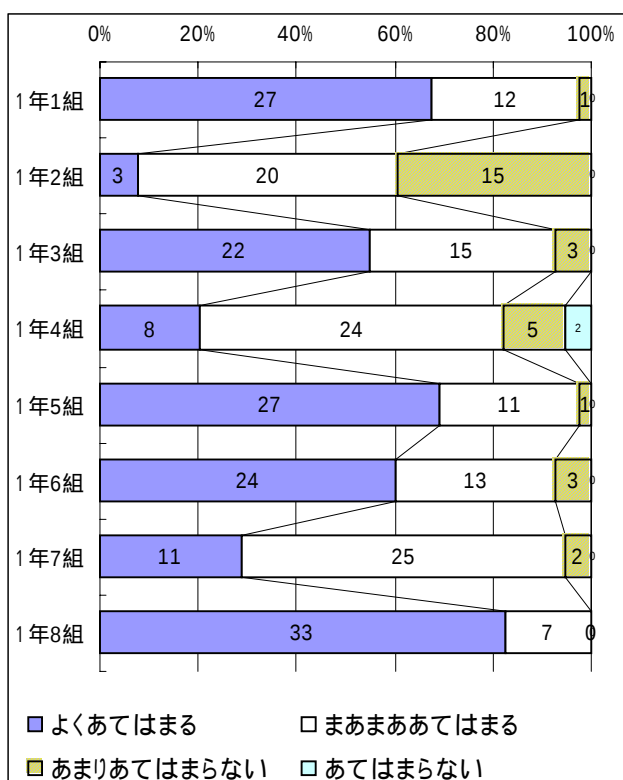
17年度から全学級で実施することになったのに伴い、分掌（生徒会部）と共に、学校行事に関する学級アンケートの実施方法や項目の再検討に入った。＜表6＞は17年度音楽コンクールに関する自己評価アンケートであるが、変更点は、学校行事の目標を再確認させる記述を盛り込み、自分の活動を振り返らせる項目、行事運営に関する項目を増やし、個々の生徒に特有の事情や特徴的な行動もとらえられるよう、自由記述部分を広くするとともに、生徒による集計参加を可能にするために記名は避けた。

エ 特定学年での学級特性

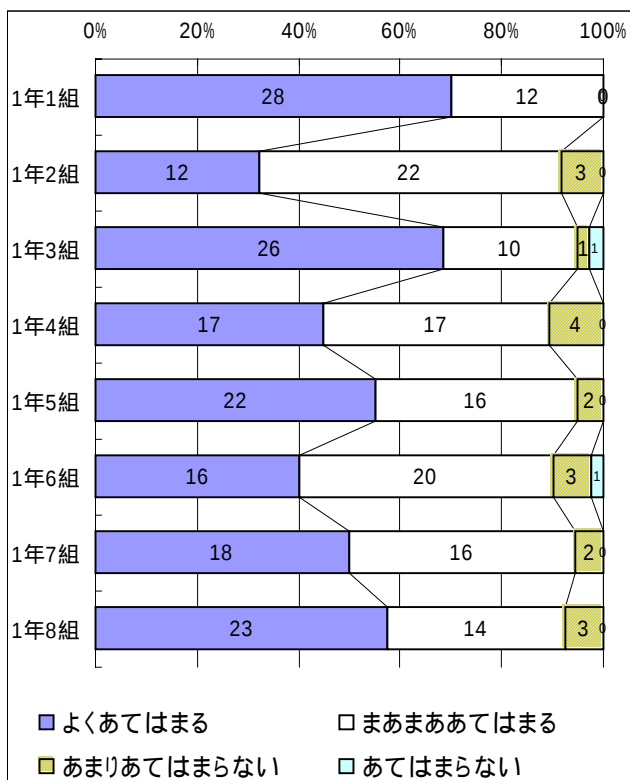
昨年度までの調査研究から、低学年ほど評価結果が顕著に表れていたことを踏まえ、本年度は1学年での学級比較を試みた。1組から4組までが男女学級であり、5組から8組が女子学級である。

＜行事（音コン・球技大会）に積極的に取り組むことができた＞

【H17年度 音コン】 ＜図3＞



【H17年度 球技】 ＜図4＞

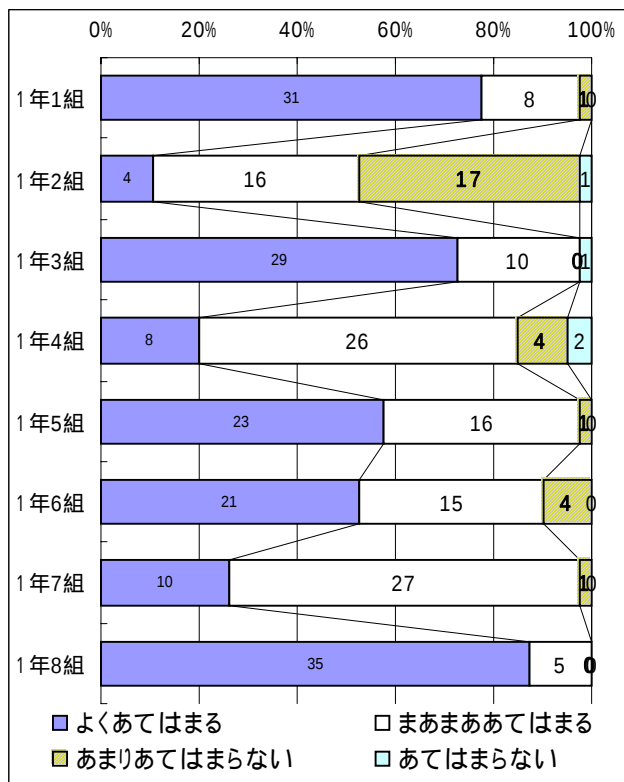


＜図3＞、＜図4＞は、平成17年度の生徒アンケート（特別活動自己評価表）の1学年の集計データのうち、情意面（関心・意欲・態度）の項目「行事に積極的に取り組むことができた」、の回答について、音楽コンクール（学芸的行事）と球技大会（体育的行事）とで比較したものである。各学級とも6月の音楽コンクールが高校生活はじめての全学級参加の学校行事である。男女学級、女子学級という特性に影響されることなく、ほとんどの学級が積極的に取り組んでいると考えられ、肯定的な回答が多い。1組と8組に肯定的な回答がかなり多いのは、入賞を果たしたことも要因として考えられる。学級でトラブルや問題があった特定学級については、積極性に欠ける雰囲気をはかり知ることができる。しかしながら、その後の7月の球技大会（体育的行事）では、どの学級も前回を上回り、90%以上の生徒が肯定的な回答を示している。これは、自分たちの振り返りによって、取組がしっかり把握でき、さらに各担任も学級の取組を自己評価アンケートによって分析でき、その振り返りを次の行事に生かして、よりよい行事にしようとする前向きに取り組んだことが考えられる。

< 学級の仲間のことを思い協力して行動するようにした >

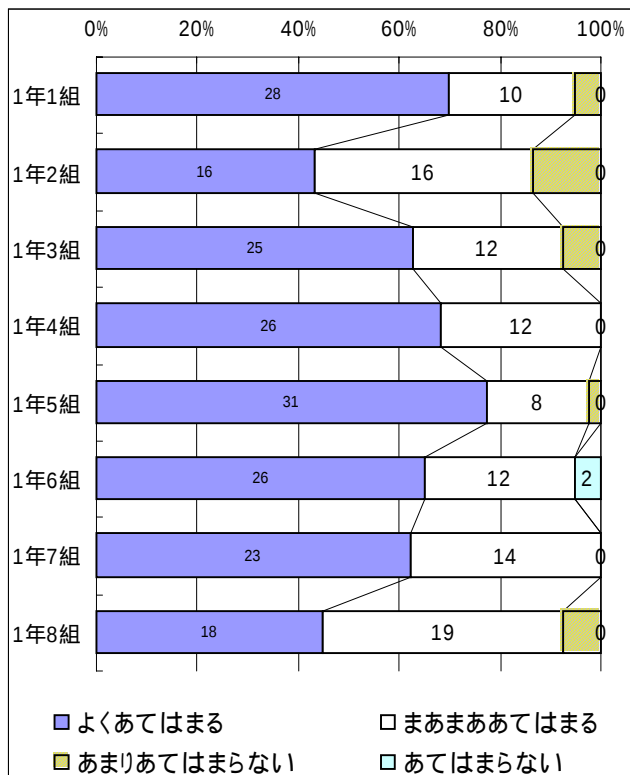
【H17年度 音コン】

< 図 5 >



【H17年度 球技】

< 図 6 >



< 図 5 > , < 図 6 > は社会性 (他者との協働) の項目「学級の仲間のことを思い, 協力して行動するようにした」の項目に関して音楽コンクール (学芸的行事) と球技大会 (体育的行事) とで比較したものであるが, 球技大会 (体育的行事) の方が同じように肯定的な回答が多い傾向がみられる。また, 当然のようにトラブルや問題のあった特定学級では肯定的回答があまり多くない。そうした結果を生む要因としては, 次の3点が考えられる。

学級全員のまとまりを最優先させて歌唱力を競う音楽コンクールよりも, 種目別に少人数で自由に動いて競技する球技大会の方が, 行事の形態上, 仲間同士で親しく触れ合う機会が多く, 学級への親しみやまとまりが強くなること。

後続の行事は, 先行する行事の成果の上に行われるため, 集団形成の成果を得やすいこと (音楽コンクールは5月, 球技大会は7月)。

個々の生徒の取組がよければ, 集団としての学級の雰囲気や学級経営に影響を及ぼす。

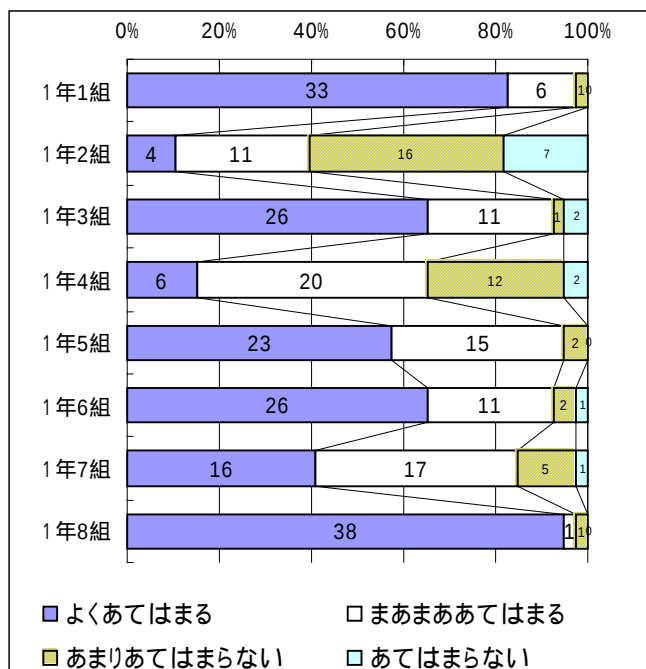
また, 次の< 図 7 > , < 図 8 > はアンケートの質問項目6「『今の学級でよかった』という気持ちが以前より増した」について比較したものである。音楽コンクールの結果からはほとんどの学級は肯定的な回答が全体を占める。その中で取組に積極さがあまり見受けられなかった学級は安心感や満足感に欠け, 肯定的な回答が少ない。しかしながら, 次の行事である球技大会直後では, 上記の要因もさることながら, 行事への取組が学級に対する安心感や満足感を高め, どの学級も肯定的な回答が多いことがはっきりと示された。つまり, 個人の取組の度合いは, 学級の団結力の高まりと相互関係にあると考えられるが, 各個人の学級に対する評価や帰属意識と結び付いていることが明らかになった。しかし, 学級としての団結力の形成には, 様々な要因が複雑に作用しているため, 因果関係について簡単に結論付けることはできない。結果として学校行事に対する自己評価アンケートからは, 学校行事

が学級のとまりや雰囲気を変え、学級に安心感や満足感を発生させることがはっきりと示され理解されることができた。

<「今の学級でよかった」という気持ちが以前より増した>

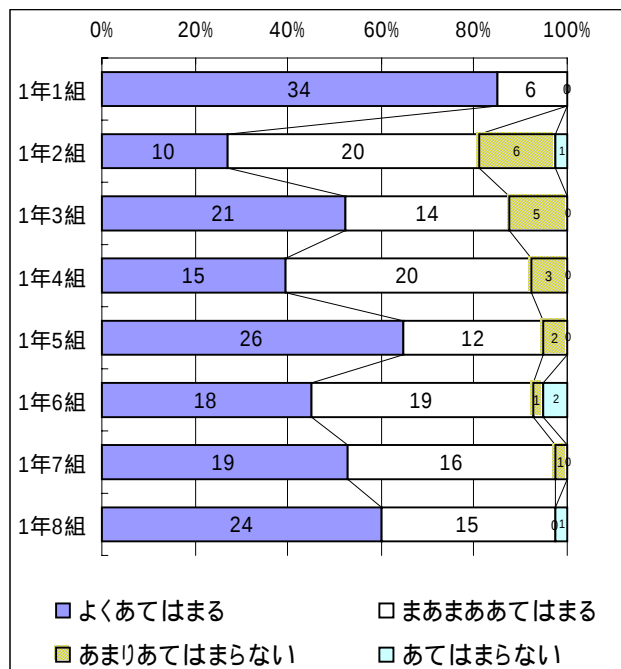
【H17年度 音コン】

<図7>



【H17年度 球技】

<図8>



アンケートに関する有用性調査から生徒たちの主な意見を集約した結果は以下のとおりである。

肯定的な意見

- ・ 楽しかったことを書くのはいいことだと思う。(しっかり書いて思い出に残るから。)
- ・ 評価を見てどのように取り組んだか分かった。
- ・ 自己評価をすることはいいことであり負担に感じない。
- ・ 自分にプラスとなったから。(今よりも良くなるなら負担に感じない。)
- ・ よりよくしていくためにはアンケートはいい(大切)と思うから。
- ・ 自分の評価を具体的に書くのは難しい。
- ・ あらためて振り返ることができた。(行事の意味とか理解できた。)
- ・ 自分が学級にどんなことで協力できたかなど、振り返れた気がする。
- ・ 教員の感じ方と生徒の感じ方では違いがあるかと思うから必要だと思う。
- ・ 調査なしで続けていったら、悪い所とか何も改善されないままになる。
- ・ しっかりやったことを見てほしい。(生徒のいいところが分かるようになる。)
- ・ 普段振り返らないから良い機会だと思う。
- ・ 担任は一人しかいないからいろいろ見るようになる。

否定的な意見

- ・ 自分の評価を具体的に書くのは難しい。(理由を書くのは嫌だ。)
- ・ あんまり深く探られても困るから。(アンケートなら無記名にして欲しい。)
- ・ その時しか覚えてないから。(思い出すのに苦労した。)
- ・ 過去にこだわらない。
- ・ みんなが正直に書いてるか分からないから。(生徒を見ていればいい。)

以上の集計結果や意見からも分かるように、生徒たちの多くはアンケートに記入することで自ら

の取組・活動を振り返り，満足感や達成感に伴って生ずる「自己肯定感」を得るとともに，自分の課題と教員の課題を見いだしていることが分かる。「担任にしっかり見てもらいたい」という意見は，頑張っている自らの姿を担任に見てほしいとの思いがあり，頑張りに応じた正当な評価を求めていると考えられる。

オ 生徒会部での分析検討

本年度の全学級実施を受け、生徒会部でも学校行事に対する取組についてブレイン・ストーミングを取り入れ、自由に意見を話し合い，カードに記入し，ＫＪ法によって問題点・改善すべき点を以下のように分類してまとめた。

< 生徒による評価 >

項 目	問 題 点	改 善 点
パートテープ	・ テープの中身が分からない。	・ 中身の確認をして、記入しておく。
楽譜	・ ごちゃごちゃで乱雑すぎる。	・ 使用した後も、本人が整理し、ファイリングしておく。
実施案	・ 雑すぎる。	・ 原稿の確認を二人以上で行う。
マナー審査	・ 少し厳しすぎた。学年によって差がでた。	・ 各担当者と事前に打合せをしっかりと行う。
大合唱の歌	・ 難しすぎた。	・ 曲を早めに決定し、練習日程を多くする。
マナー審査回収箱	・ 回収に時間がかかる。	・ 設置場所を変え、数を増やす。
配付物	・ 変更点の把握ができない。	・ 新しいものには日付を入れる。

< 教員による評価 >

項 目	問 題 点	改 善 点
生徒会組織(2 年生)	・ 執行部の運営意識が低い(執行部の朝の集合が遅く、準備の時間があまりなかった。)	・ 学校行事は生徒が自ら運営するという意識をもたせる。
職員の歌	・ 職員の集合が悪い。	・ 職員への連絡の周知徹底を図る。
事前準備	・ 不備が多すぎる。	・ 生徒会の中で多くのチェック機能を設け、ミスが無いようにする。昨年度使用した楽譜にミスがあったので修正した。
学級貸出し用のカセットデッキ	・ 故障が多かった。	・ 来年度予算を組み、修理を行う。

カ 成果と考察

(ア) 個々の生徒の取組状況が明確化される

学校行事で個々の生徒がどのような取組を行い、どのように協力し、団結して学級がまとまったかについて、従来は担任による「主観」で判断されがちであったが、上述のような生徒アンケート（特別活動自己評価）を行事ごとに実施し、生徒個々の自己評価を学級ごとに集計・分析を行った結果、担任がみえていなかった生徒の自主的な取組や活動を明らかにすることができた。また、生徒アンケートの行事ごとの一人一人の回答の追跡により、個々の生徒の取組状況とともに行動特性や成長が明確にとらえられた。

(イ) 生徒・教員とも「振り返り」が次につながる

「行事での優勝」という目標に向けた個々の生徒の取組は、学級のまとまりに一定の成果をもたらし、その成果や「振り返り」に基づいた達成感・満足感や失望感は、次の学校行事において一段上の成果を求めて努力することにつながる。学級担任がそれに呼応した適切な指導を加えることは、生徒の士気に相乗効果をもたらし、学級としての団結力を高めるように働くと考えられる。学校行事（特別活動）は、単に生徒個人の主体的な取組が成長をもたらすことにとどまらず、教員の積極的な働き掛けによっては、学級をまとめる重要な手だてとなる教育活動であることをあらためて認識することとなった。そして、教員も「特別活動では生徒が主体なので好きにやらせよう」との思いから、指導が不十分であったことを反省することができた。

(ウ) 教員が生徒の前向きな行動をとらせることで信頼関係が高まる

生徒の自己評価を通して、見えなかった生徒の日ごろの学校生活とは違った面を発見し、生徒の個性をしっかりと把握し、何らかのアドバイスや指導をしていくことが、集団の中で生徒が成長する上での手助けになると考えられる。特別活動において、生徒とそのようなコミュニケーションの機会をつくることにより、生徒との新たな信頼関係を築くことが可能となる。

(エ) 学校行事での「振り返り」を学級経営及び組織の活性化に生かすことができる。

アンケート結果の一覧を学級担任に提示したところ、評価結果があまり良くなかった学級担任は、次の学校行事において、積極的に活動場所に出向いて生徒の状況を見て回るなど精力的に指導し、自分の目で個々の生徒の姿をとらえようとした。つまり、生徒の自己評価が学級担任の動きに影響を及ぼしたのであり、これこそが「指導の改善に生かされる評価」の望ましい姿であると言える。

また、担任概括については学級担任、学級集計は副担任、その集計結果については学校評価部、全学級結果は生徒会部で集計を行うなど、教員の取組を組織化することで全職員に学校行事の評価の在り方や教育的効果の意義を共通認識することにつながった。さらに、生徒会部及び生徒会役員が学校行事の問題点、改善点について、KJ法を用いて検討する動きまで高めることができた。

以上のように、観点別評価規準に基づいた学校行事アンケート（自己評価表）を全学級実施にしたことを発端として、生徒会部や職員を巻き込みながら、学校行事における学級経営及び組織の活性化につなげることができたのである。

(2) 自己評価記録表（セルフポートフォリオ）の再開発

ア 実践方法

学校生活における本人の取組を項目別に自己評価させた上で、担任による評価を加えて記録表にまとめ、保護者に発信した。保護者には感想等を記入してもらい、新学期に回収してファイリングした。1，2学期は生徒から先に、学年末は担任から先に評価した。＜表7＞は自己評価記録表の様式である。＜表7＞の記録表とともにファイルを配付し、通知表とともにファイリングするよう指導した。

＜表7 自己評価記録表 初版 平成15年度＞

セルフポートフォリオ クラス() 番号() 氏名() (自己成長記録)			
下記項目に該当する記号を記入せよ。			
A	かなり自主的に行ったと思う	C	少し積極的に行えたと思う
B	自主的に行ったと思う	D	あまり積極的に行えなかった
1学期	作成日 平成15年 7月 日 曜日		
自己点検項目		自己評価	担任評価
担任とのコミュニケーションについて			
クラスの仲間とのコミュニケーションについて			
生徒会・HR役員について			
学校行事（音楽コンクール・球技大会）について			
清掃活動について			
授業中の取組について			
毎日の家庭学習について			
中間考査の学習について			
期末考査の学習について			
上記以外で自己点検したい項目を記入しなさい			
コメント（保護者）			
		<u>確認サイン</u> 保護者に確認をしてもらい（サイン）、必ず始業式当日に提出のこと	

イ 実践結果と有用性

(ア) 過去2年間の実践結果から

当初の「自己評価記録表」では客観性に乏しく、より客観的に評価させる方法を工夫することが必要ではないかと考え、本研究の顧問である愛知教育大学教授寺西和子先生の御教示により、生徒の自己評価がより明確になるように、各項目の具体的内容を例示して評価規準とするようにしたり、評価の判断理由を記入する欄を設けたりして、16年度は＜表8＞のように改訂した。

しかしながら、自己成長という観点から改めて自己評価記録表を見直してみると、作成された自己評価記録表からは心の成長や取組の姿（履歴）があまり汲み取れず、次のような新たな課題点が浮き彫りになった。

それぞれの項目で大切なことがはっきり姿として見えてこない。

個々の生徒が大切に思っている考え方が具体的に書かれていない。

学校生活上の個人の考え方やその取組方や思いが明確に表れず改善がみられない。

保護者に子供の考えが伝わらない。

実施に際しての記入時間が短い。

< 表 8 自己評価記録表 改訂版 平成 16 年度 >

自己評価記録表		学級 () 番号 () 氏名 ()	
(セルフポートフォリオ)			
下記項目に該当する記号を記入しなさい。			
A	かなりよくできた	C	あまりよくできなかった
B	よくできた	D	できなかった
1 学期	作成日	平成16年 7 月 日	曜日
自己点検項目		自己評価	担任評価
担任とのコミュニケーションについて			
A. 自分からコミュニケーションするよう心掛けた		評価を付けた理由	
B. コミュニケーションするよう心掛けた。			
C. 話かけられたらコミュニケーションするよう心掛けた。			
D. あまりコミュニケーションできなかった。			
清掃活動について			
A. 担当中は積極的に協力して取り組んだ		評価を付けた理由	
B. 担当中はよく取り組んだ。			
C. 注意されることがなく取り組んだ。			
D. あまり取り組まず、注意されることがあった。			
授業中の取組について			
A. 緊張感を持続し、集中して取り組んだ。		評価を付けた理由	
B. よく集中して取り組んだ。			
C. 時々集中力が途切れることがあった。			
D. あまり、授業に集中できず、注意されることがあった。			
学校行事（音楽コンクール・球技大会）について			
A. 積極的に協力し、意欲的に取り組んだ。		評価を付けた理由	
B. 協力して取り組めた。			
C. あまり協力して取り組めなかった。			
D. 意欲的に取り組めなかった。			
考査の学習について			
A. かなり前から計画的に意欲をもって取り組んだ。		評価を付けた理由	
B. 考査期間中から計画的に取り組んだ。			
C. 翌日の考査については取り組んだ。			
D. あまり取り組んでいなかった。			
上記以外で自己点検したい項目を記入しなさい			
コメント		確認サイン	
(保護者)			
保護者に確認をしてもらい(サイン)、必ず始業式当日に提出のこと			

そこで、課題点を全面的に見直して<表9>のようにし、実施に際しての手順等<表10>を各学級担任に明確に示し、協力を得た。

<表 9 再開発した自己評価記録表 平成 17 年度>

自己評価記録表 (セルフポートフォリオ) 下記項目に該当する記号を記入しなさい。 A かなりよくできた。 B よくできた。 C D		1 学期 保護者に確認をしてもらい(サイン)、必ず始業式当日に提出のこと。 あまりよくできなかった。 できなかった。 _____ 年 組 番氏名 _____	
自己点検項目	自己評価	担任評価	友人からのアドバイス
友達とのコミュニケーションについて			
自分が大切にしていることや心掛けていることを書きなさい。	振り返り(できたこと・できなかったこと)		
担任とのコミュニケーションについて			
自分が大切にしていることや心掛けていることを書きなさい。	振り返り(できたこと・できなかったこと)		
学校行事(音楽コンクール・球技大会)について			
自分が大切にしていることや心掛けていることを書きなさい。	振り返り(できたこと・できなかったこと)		
学習について(授業中の取組)			
自分が大切にしていることや心掛けていることを書きなさい。	振り返り(できたこと・できなかったこと)		
部活動での取組について			
自分が大切にしていることや心掛けていることを書きなさい。	振り返り(できたこと・できなかったこと)		
コメント(保護者) サイン _____			

実際はA 3 サイズ

自己評価表の記入について

1 主旨

県総合教育センター委嘱の3年間の研究である(県下で2校のみ)。この研究内容が今後の県内の高等学校の指針となりうる。

2 目的

本人の学校生活(在り方)を見直す機会をつくり、振り返り(自己評価)を行う。その振り返りを今後の学校生活により生かすことで、心の成長や学校生活の改善に生かす。振り返りに反映される学校生活に関する情報を保護者に発信する。

素直に記入させる。

あくまでも評定ではないことを理解させる。

心の成長に役立つことを理解させる。

しっかり振り返りの時間を取る

3 実施手順 原則ペン書き記入させる。

ア)各学期初めのLTで生徒に各項目の

「大切なことや心がけていること」を記入させる。(20分から30分程度)

イ)各学期末のLTで生徒に各項目の

「振り返り(できたこと・できなかったこと)」

「自己評価」

「友人からアドバイス」の順に記入させる。(30分から40分程度)

但し、「友人からのアドバイス」は項目別に何人でもよい。

ウ)記入後回収し、終業式までに担任評価をすませる。

エ)終業式に再配布する。

オ)休業中に保護者の意見感想を記入、サインしてもらい始業式に回収し、確認をする。

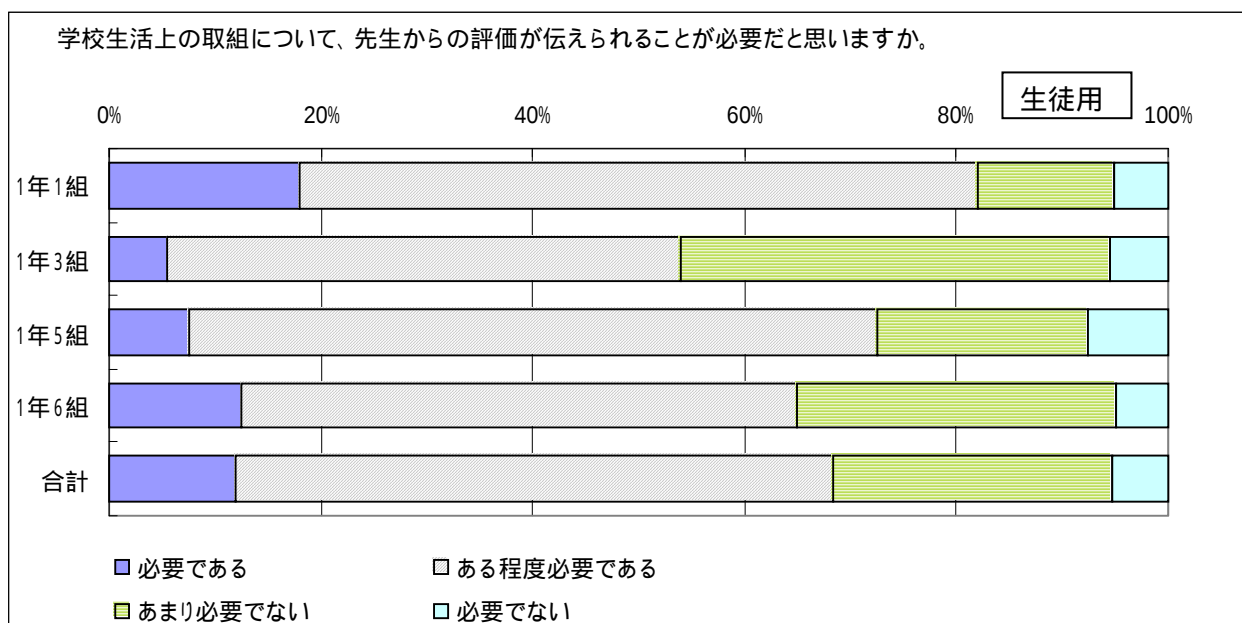
カ)確認後、ファイルを配り、ファイリングさせる。

(1) 生徒・保護者対象の有用性調査からみえてくるもの

本年度の研究学級に再度、自己評価記録表の取組に対する有用性調査(アンケート)を生徒及び保護者対象に実施して検討した。これまでの調査からは、約8割の生徒と保護者は、評価結果の良し悪しに関係なく、担任の評価は妥当なものであると回答している。

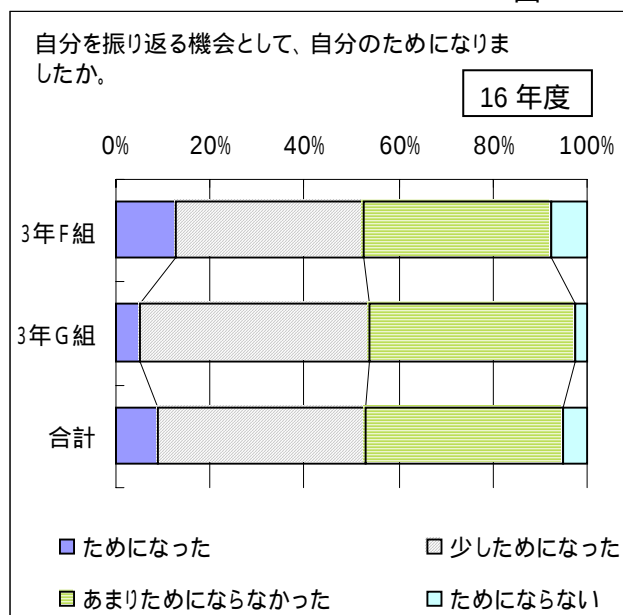
また、<図10>から分かるように、約6割の生徒が、担任が特別活動の評価をすることの必要性を肯定的にとらえている。担任が学校生活全般にわたる評価を行うことは、生徒をより深く理解することにつながる一方、生徒に生活全般を評価されることの窮屈さを感じさせる場合もある。「生徒を見守る」ことが、「萎縮^{いしゆく}させない」で「安心感を与える」ことに結び付くためには、教員が受容的な態度で接し、生徒が自分の考えを自由に述べる雰囲気を保障することが重要である。それは、生徒が自分の良い点を伸ばしたり不十分な点を改めたりするためには、自分の中に変化を生じさせる心の動きが不可欠だからである。その意味で、教員の行う評価は生徒の自己評価力を向上させるための支援としての意味合いをもつことに配慮しなければならない。

< 図 10 >

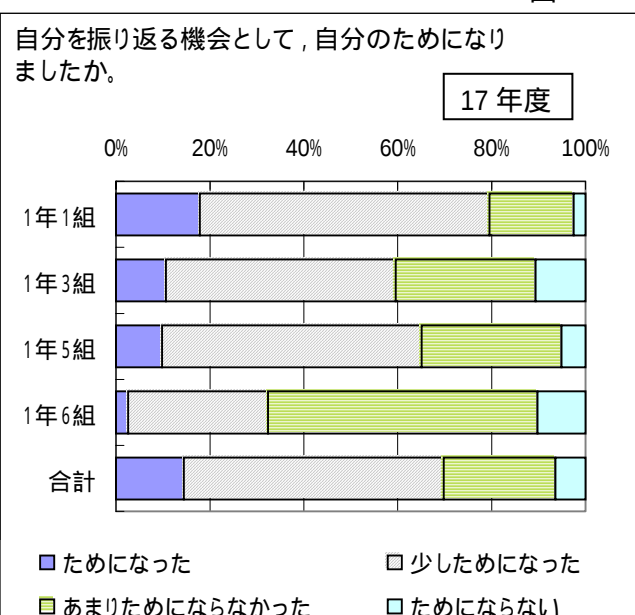


また、「自分を振り返る機会として、自分のためになりましたか。」の回答を<図 11>、<図 12>のように年度別に比較してみると、肯定的な回答が多いことが分かった。

< 図 11 >



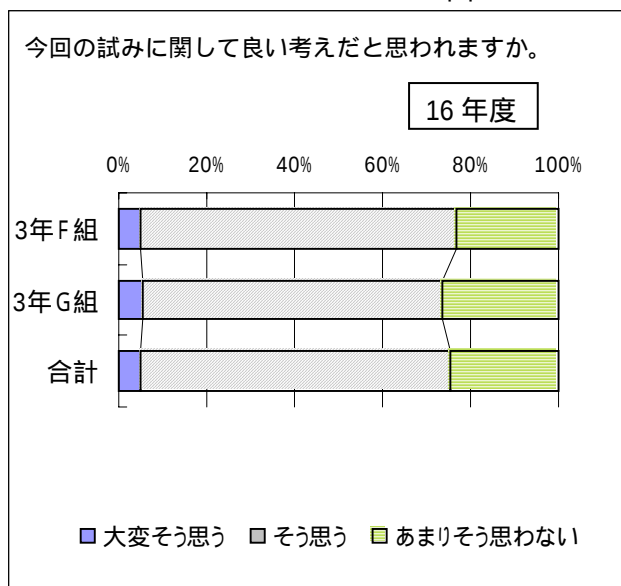
< 図 12 >



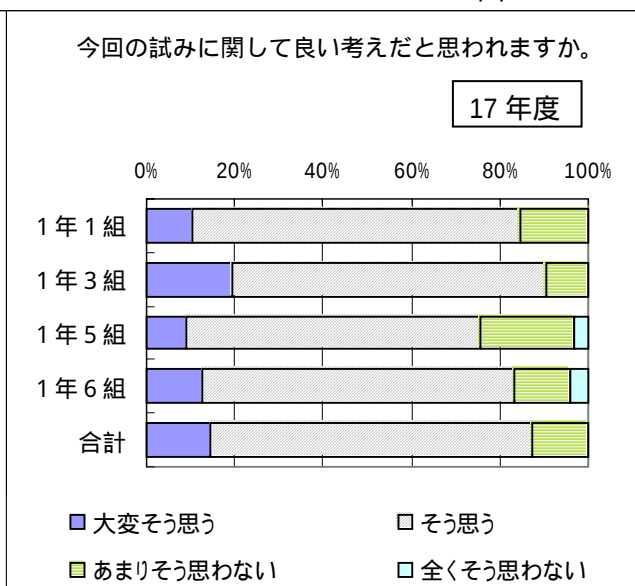
これは、自己評価記録表を改訂したこともさることながら、そのサイクルを明確に示したことや、生徒に本研究の趣旨をしっかりと理解させ、記入時間（振り返りの時間）を多く費やしたことによるものと考えられる。それ以外の要因としては、本年度は1年生対象の実施であるが、過去2年間は同一学科学級で2年から3年にかけての実施で、あまり担任と生徒の信頼関係に変化がなかったことなどが考えられる。対象学級を増やしたことによって回答に差が生じたのは、生徒と担任との信頼関係が何らかの影響を及ぼしているのではないかと推察される。また、肯定的な回答が高かった学級担任に

よると「保護者会で高校生活について保護者の関心が高く、生徒が楽しく過ごしているので安心して
いるようです」とのコメントをいただいた。また、＜図 13＞、＜図 14＞からも保護者の関心の高さ
が見受けられる。

＜図 13＞



＜図 14＞



調査結果（対生徒）の自由記述からは、「担任がどう思っているか知りたい」、「（評価されると思う
と）やる気がでるから」などの意見があった。生徒は、担任による評価が自分に対する理解を深める
契機となり、自分の成長に役立つことであると前向きにとらえている意見が多い。

保護者の意見からは、「先生、友人、本人と3人の意見で、本人も自分がどう感じられているのかよ
くわかったと思います」、「正直に評価ができています。その評価に対しての先生の評価も正しく評価さ
れていて、今後の生活、学習など反省し、2学期に生かして行ってほしいです」、「できれば担任の評
価だけでなく、コメントがほしい」、「良いことと思いますので続けていただきたいと思います」、「友
人からのアドバイス欄があるのはややおもしろい。友人は良いところを見ているなと感じた」などの
肯定的な意見が多くあった。生徒の調査結果からは、今回の試みにに関して肯定的な回答が過去同様
50%程度の学級もあり、この取組はある程度理解されている。また、学校生活上の取組について先生
からの評価の必要性や振り返りの機会として肯定的にとらえている。生徒や保護者の意見の中にコミ
ュニケーションに役立つのではというコメントもあり、より適切な情報発信ができ、生徒とのコミュ
ニケーションをさらに深め、生徒の学校生活の改善に活用できるような「自己評価記録表」の研究を
今後も進めていきたい。

ウ 担任としての感想

- (ア) ほとんどの生徒が真剣に取り組んでいた。
- (イ) 初期段階（学校生活の情報発信）として、ある程度は保護者に理解されている。
- (ウ) 継続的に取り組むことによって、学級の生徒一人一人の変化（特に学校行事後）を担任と
してある程度は把握できるようになった。生徒をしっかり見るようになった。
- (エ) 生徒の自己評価には個性（性格）がかなり表れる。担任として個々の生徒の個性を評価し
ていることにならないか。
- (オ) 友人からのアドバイスが的確であると感じる生徒が多かった。生徒は友人がアドバイス欄

に記入することで取組が認められているものと再確認でき、信頼関係が深まる。

- (カ) 担任の評価を気にする生徒が多い。(特別活動で担任に評価されていることをかなり気にしていた。)

エ 成果と考察

- (ア) 自己評価の取組及び情報発信の機能が、ある程度は理解されている。

- (イ) 保護者には、「自己評価記録表」をコミュニケーションの契機として活用しようという考え方がある程度は見受けられる。

- (ウ) 学校側の一方的な情報発信にとどまらず、家庭からの情報(学習の取組や生活状況など)をより多く受信できれば、生徒に対する理解を深めることができ、個別指導に役立てられる。

- (エ) 生徒は、担任が学校生活の取組を評価することを、評価結果の良し悪しにかかわらず、自分を理解するために必要と考えている。

- (オ) 自己評価には、客観性という観点からも他者評価で補強することが必要である。友人からのアドバイス欄を設けることで自己評価の確実性がある程度高まり、友人への安心感や信頼感が深まった。しかし、評価のための評価に陥らないためには、学期に1回程度の実施が妥当ではないかと考えられる。自己変容を遂げるための評価の主体はあくまでも本人であるから、「自己評価記録表」の作成が学校生活の振り返りの機会になると確信して今後も活用させたい。「自己評価記録表」を用いて、担任が生徒とどうかかわって指導に生かせるかが今後の課題である。

4 おわりに

学校行事における生徒の自己評価を中心に研究を進めたが、生徒たちは学校行事に対する自分たちの思いを書きとどめたいという気持ちからか、行事ごとの自己評価に違和感なく答えていた。多くの記述の中でも、「先生の主観が大切、先生がしっかり見ていればいい」、「先生に楽しくできるよう協力してほしい」、「姿だけでなく生徒の考えていることを感じることも必要」などの意見が特に印象深い。従来の指導を振り返ると、学校行事に関しては生徒中心の取組となり、指導がなおざりになりがちだった。今回の研究のように、個々の生徒が取り組む姿を教員がしっかりと把握するように努めることで、生徒の個性を踏まえた指導に基づく、生徒たちとの深い信頼関係の構築につながると考えられる。

また、学校行事における生徒の自己評価の活用について、各学級担任や副担任、生徒会顧問からは「各学級の特徴がはっきりと示され、非常に興味深い」などの意見が多くあり、学校行事での生徒の取組を評価させることの意義や行事を活用した学級指導の重要性を全職員で再認識することができた。個人の心の成長を3年間にわたって見取り、生徒の心の成長や自尊感情の醸成に資するよう、個々の生徒一人一人に「どのような助言や指導がふさわしいか」まで考えるとなると、個人データを担任間で共有して連携したり、保護者を巻き込んだりしながら進める必要があると考えられる。

生徒に自己評価をさせる(取組を振り返らせる)ことが、生徒自身の成長にとって大切なことであることは言うまでもないが、その限界を見極め、規準を明確にし、「振り返り」の時間を確保して取り組むことが大切である。教員による評価を生徒が自分の中で咀嚼し、より客観的に自分を見つめた上で成長していくようなシステムの構築を図り、生徒を見守り続けたい。

観点別評価規準に基づく学校行事アンケートの実施が、結果的に、KJ法による学校行事の問題点、改善点の議論などの生徒会部や全教員を巻き込む動きを起し、学校行事や学級経営及び組織の活性化につながったと言える。すべての教員が学校運営にかかわるという意識がもたらす効果が大きいことを改めて感じざるを得ない。